



南雲和夫

町内担当制度導入で 独自のまちづくりの 一歩を

り組みを始めたところである。

事務事業の見直しについて

質問

住民と行政はパートナーシップの関係であることから、町内担当制度は職員が職場の枠を超え住民と同じ目線で考えていくことにあり、これからの町づくりを考える上で、その中心的存在として大きな期待と意味を持つものと考えている。

町長答弁

制度は必要性と思っているが、町民満足を目指すプロジェクトは活動の途上にあり、接遇改善の取り組みを終了時に考えたい。町民の声を広く聞き、それをどのような形でフィードバックしていくのか、2年目の課題として政策形成実践研修提案を立ち上げるべく取

事務事業の見直しについて

質問

行財政改革大綱では17年から21年の5年間とし、社会情勢や行財政の変化を踏まえ、必要に応じ見直しを行い、進捗状況を検証し広く公表するとある。

また、今後の町税収入予測では平成27年と今年度対比16・6%減の数値であり、3力年の主な成果と課題の検証整理が必要である。

町長答弁

年次計画に基づき歳出で5億6千600万円の削減の達成が見込まれ、歳入では6千万円の目標値が達成で

一
般
質
問

さず、通算で4億9千600万円の成果となる。住民への直接的影響が少ないと見込まれる事業。他市町村より過大な事業。民間実施が適当な事業。効果があまり見込めない事業等実施した。今後も経常的収支が減少していくため、全職員で取り組む課題と考えている。個々の問題については細かい検証を進め公表させていただきたい。

「雪国館」の運営について

質問

課題として人材の育成があるが、指定管理者制度運用に当たっての期待と、どのような管理者を想定し、いつ頃を予定しているのか。

教育長答弁

○民間の経営手法の発想により、魅力ある雪国館の運営が構築できること。

○業務内容の性格に見合った専門的知識を要し、資格も条件に入る。

○地域の民間活力を積極的に活用しており、研究しつつ状況を見守っていきたい。

「童画館」建設について

質問

検討委員会設置にあたり、他計画との整合性や運営方法など早期の課題と整理、検討が必要である。基本的な考えと川上家との進捗状況を伺う。

教育長答弁

川上家より作品の扱いと美術館建設について次のよ



民俗資料館「雪国館」内部

うな提示があった。

○寄託の96点については契約をし、町の判断で使用することを可能にする。

○作品の散在や所有権の移転は考えていない。

○町民が維持費を負担してまで理解いただけるのか疑問である。

○美術館建設や作品の有効活用等の委員会に参加を希望したい。

したがって、採算性と町民意識の高まりが必要であり、課題の整理など検討を要する。